

40日後の報告(8月17日)

早いもので、40日が過ぎました。その後、お借り致しましたアスキミーをやらせておりますが、やはり愛子には興味がとぼしいらしくて、一人遊びでの学習はむずかしく、今しばらくの時間が必要のようです。

ひばりの声のカードは面白いらしく、好んでアスキミーに入れますが、漢字カードは3、4枚だけで、それ以上はどうしても入れようとしません。

また、聞き慣れぬのか、言葉を聞き取り違うことがあります。長男がカードを差し込んで遊びますので、愛子も興味を示してやるようになりぬものかと、折を見ては一緒にやらせております。(中略)

レコードのお話も、現在の愛子の力ではまだまだむずかしいらしく、部分的にはある程度理解できるようですが、話の流れは理解できないようです。しかし、繰り返し聞かせてはおります。

次に、漢字ゲームの事です。最初は毎日一日1字のペースで進んでいたものが、3週目ごろから、少しずつ忘れが目立ち、確実に読めるようになってから、新しい漢字を提出するようにしているのですが、朝から2、3セットはすらすらと読んでいたのに、4セット目になるとどうしてか、7字のうち3字ほど忘れて読めないことがあります。それで、3日かかっても7字全部が読めるようになってから、次の新しい漢字を加えて進めるようにしています。

ところが、次週前半、非常にスムーズに1字ずつ覚えて、朝からすらすらと読めていたのが、その日の5セット目になると、7字のうち4字も読めなくなります。それまではすらすらと読めていたものが、急に読めなくなるのはどうしてでしょうか。不思議でなりません。

それから繰り返して2日教えたのですが、いくら教えても読めませんので、読めなくなった漢字をはずして、改めて1字ずつゲームに取り入れて教えていくことにして、ようやく全部読めるようになりました。(中略)

ゲームを始めてから40日間で、今まで教えた字は全部で30字になります。これを、カルタ取りのように、こちらで読んで取らせますと、25、6枚は取ります。ところが、これを読ませてみますと、読めるのは22、3字です。

今、ゲームをしている7字でも、読んで取らせれば7枚とも取りますが、読ませますと、1字か2字、読めないことが時々あります。

現在までに教えた字は次の通りです。

目、手、足、耳、犬、猫、雨、鶏、舟、顔、苺、象、鳩、赤、水、猿、女、男、川、着物、自動車、馬、先生、豆、糸、石、頭、飛行機、黒、電車。
(以下略)

この手紙は8月17日付で、この指導を始めて40日目のもので、ここでアスキミーというのは、リーダーズダイジェスト社が製作した、私

の監修になる『楽しい漢字』の教育機器の名前です。

これは、録音された漢字カードを、このアスクミーに差し込みますと、この機器がその漢字を読んでくれるようになっていきますので、一人で学習できます。それで、ご両親の手が少しでも省けるようにと思いましたが、7月27日、関西方面へ行く途中、プラットホームまでお父さんに来てもらって、停車中に手渡したものです。

この機器は、子供にもよりますが、親が読んでやるよりも興味を持って漢字に取り組みますので、非常に効果があります。幼児開発協会理事長の井深大氏は、“機械が先生に勝った”という書物で、この機器学習が先生の指導による学習効果よりも高かった、ということを書いていますが、それは事実です。

子供は一般に繰り返しが好きですが、大人はそれが苦手で、なかなか子供の相手がしきれません。そこで、それを決していやがることのない機械にやらせよう、ということで考案したものです。

ところが、愛子ちゃんの場合は成功しませんでした。それは、多くの子供が喜んでするカードの差し込みを、愛子ちゃんは少しも喜ばないからです。その原因は、愛子ちゃんの聴力が低いせいではないかと思います。

「聞き慣れぬのか、言葉を聞き取り違うことがあります」というのも、実は聴力の低いことを物語っているのだと思います。だから、機器から流れ出る“言葉”が、よく聴き取れなくて、興味を感じないのだと思

います。

元来、機器は音声を発するだけで、口の形が示されませんので、いわゆる“口まね”ができていくのです。その上、聴覚に障害があってその能力が低ければ、いよいよまねがしにくくなります。

だから、愛子ちゃんの場合は、初めての漢字は、どうしても親が直接口の動きを見せながら読んで聞かせる必要があります。そして、その漢字が覚えられた後に、その漢字のカードを与えて、アスクミーに掛けさせるようにしたら、喜んで機器を使うようになったのではないかと思います。

一般的に言えば、脳障害児は、聴力も普通児より劣っていると考えるなければなりません。だから、漢字を読んで教えてやる場合、口を大きくはっきり動かして、普通より強い声で発音することが必要です。そうでないと、個々の発音の違いがはっきりと区別できず、従って、それを覚えることができません。発音がよくわからず、それが覚えられないから、そういう学習に興味を感じないのだと思います。

聴力器官も、それを多く使うことによって発達するものですから、愛子ちゃんのように聞くことに興味を感じないようでは、聴力がいよいよ貧弱になります。聴力が弱いから聞きたがらない。聞きたがらないから聴力が発達しない。この悪循環を、どこかでどうしても断ち切らなければいけません。